

第十四回 よこはま能の会

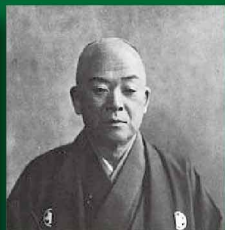
〔横浜と梅若万三郎家の能Ⅳ〕

せみまる

蝉丸



三世 梅若 万三郎



初世 梅若 万三郎



令和五年

七月十七日 (月・祝)

午後二時開演

(午後一時十五分開場)

横浜能楽堂

最新音響技術を駆使した、時を超える共演。梅若万三郎家が継承してきた能の神髄は、研ぎ澄まされ、豊かになり、そして未来へと継ぐ。

(録音)

独吟

蝉丸

初世 梅若万三郎
三世 梅若万三郎

仕舞

蝉丸

梅若 紀彰

能

蝉丸

蝉丸 伊藤 嘉章
逆髪 加藤 眞悟

主催 よこはま能の会実行委員会

後援 横浜能楽連盟

協力 (公財) 梅若研究会・常葉会(梅村昌功主宰)
松月会(久田舜一郎主宰)

眞謡会(加藤眞悟主宰)・嘉翔会(伊藤嘉章主宰)

文化庁日本遺産大使 大倉正之助

写真 蝉丸(右) 梅若 桜雪

逆髪(左) 梅若万三郎

撮影 前島写真店

音響 キスソニックス株式会社

第十四回 よこはま能の会

横浜と梅若万三郎家の能IV

令和五年七月十七日(月・祝) 午後二時開演
於 横浜能楽堂

本日の番組について 加藤 眞悟
梅若万三郎家の謡

独吟

蝉丸 初世 梅若万三郎 (録音)

蝉丸 三世 梅若万三郎

仕舞

蝉丸 梅若 紀彰

梅若 志長
八田 達弥
梅若 紀彰
長谷川晴彦

休憩 二十分

二時四十五分頃

能

蝉丸 伊藤 嘉章
逆髪 加藤 眞悟

替之型 丸 ワキ(清貫)梅村 昌功
ワキツレ(興井) 則久 英志
ワキツレ(興井) 野口 琢弘
間(博雅三位) 三宅 右矩

笛 藤田朝太郎
小鼓 久田舜一郎
大鼓 大倉正之助

後見 梅若 紀佳
梅若 紀長
梅若 泰志
地謡 梅若 志長
古室 知也 八田 達弥
長谷川晴彦 梅若 紀彰
青木 一郎

終了予定 午後四時二十分

蝉丸

延喜帝の第四皇子である蝉丸は、盲目の身に生まれついた。後世を案じた帝は清貫(ワキ)を呼び出し、蝉丸を逢坂山に捨てるよう命じる。悲しむ清貫に対し、前世の罪業を償わせようとする父帝の慈悲の心より生じたこと、と心を澄ます蝉丸(ツレ)だが、宣旨の通り、剃髪し出家の身となり、笠、杖を置き山に一人残されると、淋しさのあまり琵琶を抱き、泣き伏してしまふ。そこへ琵琶の名手・博雅三位(アイ)が現れ、蝉丸を慰めると小屋を作り、その中へ蝉丸を助け入れ、再び見舞うことを約束し帰ってゆく。蝉丸の姉宮(シテ)は、髪が上に向かい逆さまに生えているため、逆髪と呼ばれる物狂いとなり御所をさまよい出、逢坂山へたどり着く。近くの葦屋の内から琵琶の妙音が聞こえてくる。不審に思い立ち寄ると、中から声をかけてきたのは弟宮なのだ。互いの手を取り、不運を嘆き慰め合う姉弟。やがて、名残を惜しみつつ旅立つ逆髪。それを見えぬ眼で見送る蝉丸なのだ。

初世 梅若万三郎

明治元年十一月二十一日(一八六九年一月三日)生。昭和二十一年六月二十九日没。五十三世梅若実の長男。故あつて弟の六郎に本家を譲り現在の梅若万三郎家をおこす。幕府式楽の能は明治維新により衰退の危機を迎えるが、青山御所での御前能や葉山の有栖川宮別邸で父と共に英照皇太后(明治天皇の嫡母)の御前で舞台を勤め、井伊直忠伯爵の後援を受けるなど能楽の復興に尽力し、昭和十二年芸術院会員。同二十一年文化勲章授章。芸風は華麗で大きく強靱。老女物を含め現行曲完演、三千番演能。昭和の名人と讃えられた。ちなみに直忠伯は横浜能楽堂の上、掃部山公園に像が建つ井伊直弼公の孫にあたる。

三世 梅若万三郎

昭和十六年生。二世万三郎の長男。公益財団法人梅若研能会理事長。重要無形文化財総合認定保持者(日本能楽会会員)。昭和十九年五月初舞台『老松』、昭和二十二年五月初シテ『合浦』以降、数々の演能会で難曲を演じる。平成十二年三世梅若万三郎を襲名。平成二十八年年度能『朝長』にて第七十一回文化庁芸術祭大賞を受賞。平成元年のヨーロッパ巡行公演では団長を務める。令和に入り、ケルン日本文化会館開館五〇周年記念で開催されたドイツ・スイス能楽公演では各地で絶賛を博す。

伊藤 嘉章



昭和四十年生。横浜市神奈川区在住。故二世梅若万三郎及び三世梅若万三郎師に師事。観世流準職分。重要無形文化財総合認定保持者(日本能楽会会員)。昭和四十七年仕舞『鶴亀』にて初舞台。昭和五十五年梅若万三郎家に入門し、平成二年独立。平成二十八年芸術祭大賞を受賞した梅若万三郎『朝長』の地頭を勤める。嘉翔会主宰。横浜にて実演を交えた演目解説講座を不定期で開催。(公財)梅若研能会理事、(公財)能楽協会会員。

加藤 眞悟



昭和三十三年生。故二世梅若万三郎及び三世梅若万三郎に師事。観世流準職分。重要無形文化財総合認定保持者(日本能楽会会員)。平成二十五年新作能『将門』令和四年『新皇将門』、二十六年復曲能『真田』、二十八年『伏木曾我』、三十一年『虎送』、令和三年『和田酒盛』、令和四年『不逢森』、令和五年『大磯』(共に梅若万三郎監修)の制作に携わり初演のシテを勤める。平成十一年より毎年自主公演「明之會」を開催する。「眞謡会」を主宰して愛好者に謡仕舞の指導をしている。主な披曲『木賊』『鷲』『卒都婆小町』『三輪 白式神楽』『求塚』『恋重荷』『安宅』『望月』『砧』『道成寺 赤頭』『石橋』『乱』等。(公財)梅若研能会理事、(一社)復曲能を観る会代表理事。

事前講座のご案内

「蝉丸」替之型について実技を交えて解説。能面や装束もご紹介!

日時 7月8日(土)
14:00 ~ 16:00

会場 横浜能楽堂第二舞台
講師 加藤眞悟・伊藤嘉章
参加費 1,000円
(チケット購入者は半額)

【入場料】

指定席 S 5,500円
指定席 A 4,500円
指定席 B 3,500円

■横浜市民特別割引あり
各料金より500円引
要証明書

■ご支援1口1,000円
ご支援をいただきました方には、後日「蝉丸」特製ポストカードをお送りいたします。

横浜能楽堂座席図



【お問合せ・お申込み】 チケット発売は5月1日より

●カンフェティ 0120-240-540
通話料無料オペレーター対応
(平日 10:00 ~ 18:00)

●イープラス <http://eplus.jp/>

●加藤眞悟 TEL/FAX 045 (481) 8704

ウェブサイト <http://katoshingo.com/>

●梅若研能会 TEL 03(3466)3041



Confetti



イープラス